

平成 25 年度事業 中間報告

高齢者運賃割引サービス

1 事業概要

(1) 目的

高齢者の路線バス運賃を低廉化することにより、路線バスを利用した外出支援と外出機会の増加を図る。

(2) 対象者

佐渡市内在住の 75 歳以上の方

(3) サービス内容

- ・路線バスを 1 乗車 200 円で利用可能、補助券枚数は 1 年間 48 枚

2 利用状況

(1) 利用者数

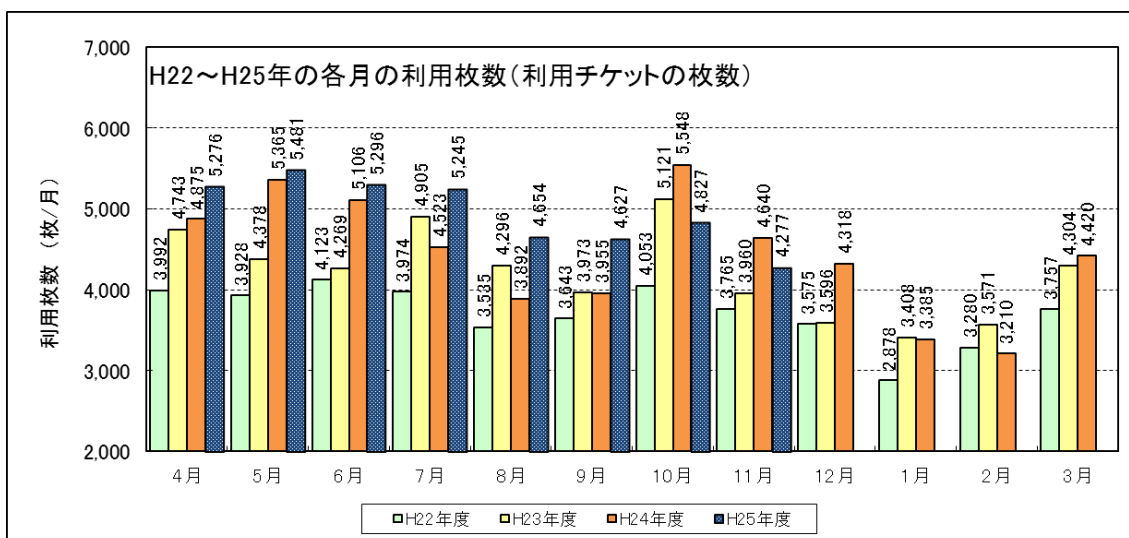
平成 25 年度の割引サービス登録者数は 11 月末時点で 4,587 人である。そのうち一度でも利用している方は 2,757 人である。

	対象者数	登録者数 (11 月末)	利用者数 (11 月末)
H24	14,757 人	4,309 人	2,774 人
H25	15,178 人	4,587 人	2,757 人

(2) 総利用枚数

平成 25 年度の 11 月までの利用枚数は 39,683 枚であり、年々総利用枚数は増加している。毎月の総利用枚数は 7 月まで 5,000 枚/月を越えていたが、8 月以降は 4 千枚台で推移している。10 月 11 月は前年同月を下回っている。

	H24	H25
総利用枚数 (11 月末現在)	37,904 枚	39,683 枚



(3) 平均利用枚数

平成 25 年 4 月～7 月までは、平均利用回数が 3.5 枚/月と横ばいで推移していたが、8 月以降は若干減少している。前年同月と比較すると、10 月、11 月は減少し、5 月は横ばいであるもののその他の全ての月で平均利用回数が増加している。

(単位：枚)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	平均
H24	3.3	3.5	3.4	3.1	2.9	2.9	3.5	3.2	3.2
H25	3.5	3.5	3.5	3.5	3.3	3.2	3.2	3.0	3.3

3 アンケートについて

平成 25 年 8 月に行ったアンケート（18 歳以上対象に 1,907 通を回収）では、今後の割引サービスの継続について 93%の方が「継続すべき」と答えた。

対象年齢については 29%の方から引き下げるべきとの声がある一方で、対象年齢となった場合の動向についての設問では、バスを利用していない層の方のバス利用への転換の割合は低くなっている。

(74 歳以下の方への設問)



4 検証

- 対象者数の増加に応じて登録者数は増えているが、利用者数はほぼ横ばいである。しかし、利用回数は増加しており、高齢者の外出支援に貢献している。
- サービスの認知度は高く、全ての年齢層で今後も継続すべきという意見が多い。
- 利用期間の拡大により利用しやすくなったと感じる方が多く、月ごとの利用回数も増加傾向にある。早い段階で使い切る方も出てきている。
- 対象年齢拡大の要望がある一方で、65 歳～74 歳は、75 歳以上に比べて免許保有率も高くアンケート結果からは対象年齢に到達してもバスへの転換の見込みは少ない。
- 平成 26 年度から、75 歳以上を対象に現行のサービス（200 円、48 枚）で本格実施に移行する。

直行便・乗換えサービス

1 事業概要

(1) 目的

平成 21 年 7 月から高齢者運賃割引サービスを全島に拡大してきたが、これにより、高齢者の多くが佐渡総合病院などへの通院目的でバスを利用していることが明らかとなった。一方で、路線の乗換えを要する場合が多く、接続のダイヤも不十分であることから、目的地まで直行で行けるよう利用者の利便を図る。

(2) 直行便サービス

1) 対象者

利用制限なし

2) サービス内容

目的地需要が高い佐和田や佐渡総合病院まで延伸運行することにより、乗り換えをせずに目的地まで乗車することができる。

3) 対象路線

内海府線（監督署前～佐渡総合病院～佐和田BSまで延伸）

海府線（佐和田BS～佐渡総合病院まで延伸）

(3) 乗換えサービス

1) 対象者

路線割引サービス利用者（75 歳以上）が乗換え便に乗り換える際に利用可能

2) サービス内容

対象者が路線バスで乗り換えをして目的に向かう場合、乗換券を発行することで、片道バス補助券 1 枚と現金 200 円で乗車できる。

3) 対象路線

- ・ 東海岸線×内海府線
- ・ 前浜線×赤泊線
- ・ 度津線×小木線
- ・ 金田新田線×小木線

2 直行便サービスの利用実績

(1) 海府線（岩谷口～相川～佐和田 BS～佐渡総合病院）

- ・ 病院へ向かう佐渡総合病院行きは、総利用者数及び佐渡総合病院での降車が平成 23 年度及び平成 24 年度の同時期と比較して増加傾向にあり、1 便あたり 7.1 人に利用されていることから本サービスが有効活用されていることがうかがえる。
- ・ 病院から帰宅する岩谷口行きは、総利用者数は平成 23 年度及び平成 24 年度の同時期に比して増加しているものの、佐渡総合病院からの乗車数は 1 便あたり 2.5 人前後で推移している。

①佐渡総合病院行き

佐渡総合病院行き 岩谷口 6:40発					
		平成25年度 (H25.4.1～12.31)	平成24年度 (H24.4.1～12.31)	平成23年度 (H23.4.1～12.31)	対前年比
利用数	利用者数 1便あたりの利用者数	7,653人 40.9人(187便)	6,718人 35.9人(187便)	6,678人 36.0人(185便)	115.7%
鍛冶町～金井間	降車数	185人(2.4%)	248人(3.7%)	20人(0.2%)	71.7%
佐渡総合病院	降車数 1便あたりの降車数	1,320人(17.2%) 7.1人(187便)	912人(13.6%) 4.9人(187便)	1,076人(16.1%) 5.8人(185便)	143.8%

②佐渡総合病院戻り

岩谷口行き 佐渡総合病院 13:57発					
		平成25年度 (H25.4.1～12.31)	平成24年度 (H24.4.1～12.31)	平成23年度 (H23.4.1～12.31)	対前年比
利用数	利用者数 1便あたりの利用者数	3,490人 18.7人(187便)	3,032人 16.2人(187便)	3,106人 16.7人(185便)	118.7%
佐渡総合病院	乗車数 1便あたりの乗車数	466人(13.4%) 2.5人(187便)	500人(16.5%) 2.7人(187便)	451人(14.5%) 2.4人(185便)	94.8%
鍛冶町～金井間	乗車数	227人(6.5%)	185人(6.1%)	113人(3.6%)	114.2%

(2) 内海府線：(真更川～両津病院～佐渡総合病院～佐和田)

- ・病院へ向かう佐和田行きは、総利用者数、両津病院および佐渡総合病院での降車数が平成24年同時期に比べ減少しているものの、佐渡総合病院での降車は31.3%（1便あたり5.2人）と通院に対する需要が多い。
- ・延伸区間内（監督署～佐渡総合病院）に固定客が見られ、佐渡総合病院へ乗換え無く直行できる便として副次的な効果が出ている。
- ・両津病院には一定の乗降数があり、迂回運行の評価は高い。

①佐和田行き

佐和田方面行き 真更川 5:58発(真更川～両津病院～佐渡総合病院～佐和田)						
		平成25年度 (H25.4.1～12.31)	平成24年度 (H24.4.1～12.31)	平成23年度 (H23.4.1～12.31)	H24年度比	H23年度比
利用数	利用者数 1便あたりの利用者数	3,096人 16.6人(187便)	3,248人 17.5人(186便)	2,922人 15.8人(184便)	95.3%	106.0%
両津病院	降車数 1便あたりの降車数	206人(6.7%) 1.1人(187便)	217人(6.7%) 1.2人(186便)	207人(7.0%) 1.1人(184便)	94.9%	99.5%
監督署前	乗り越し人数 監督署からの乗車数	622人 329人	810人 311人	597人 335人	76.8%	104.2%
監督署前～ 佐渡総合病院	乗車数 降車数	381人(12.3%) 251人(8.1%)	426人(13.1%) 360人(11.1%)	368人(12.5%) 173人(5.9%)	89.4%	103.5%
佐渡総合病院	降車数 1便あたりの降車数	968人(31.3%) 5.2人(187便)	1,050人(32.3%) 5.6人(187便)	1,052人(36.0%) 5.7人(184便)	92.2%	92.0%
佐渡総合病院～ 佐和田	降車数(E) 1便あたりの降車数	252人(8.1%) 1.3人(187便)	207人(6.4%) 1.1人(186便)	148人(5.0%) 0.8人(184便)	121.7%	170.3%

②真更川行き

真更川方面行き 佐和田 14:22発(佐和田～佐渡総合病院～両津病院～真更川)						
		平成25年度 (H25.4.1～12.31)	平成24年度 (H24.4.1～12.31)	平成23年度 (H23.4.1～12.31)	H24年度比	H23年度比
利用数	利用者数 1便あたりの利用者数	2,581人 13.8人(187便)	2,887人 15.4人(187便)	2,951人 15.9人(185便)	89.4%	87.5%
佐和田 ～佐渡総合病院	乗車数	117人(4.5%)	161人(5.6%)	124人(4.2%)	72.7%	94.4%
佐渡総合病院	乗車数 1便あたりの乗車数	346人(13.4%) 1.9人(187便)	462人(16.0%) 2.5人(187便)	429人(14.5%) 2.3人(185便)	74.9%	80.7%
佐渡総合病院 ～監督署前	乗車数 降車数	252人(9.8%) 222人(8.6%)	258人(8.9%) 205人(7.1%)	208人(7.0%) 271人(9.1%)	97.7%	121.1%
両津病院	乗車数 1便あたりの降車数	141人(5.5%) 0.8人(187便)	129人(4.5%) 0.7人(187便)	122人(4.1%) 0.7人(185便)	109.3%	115.6%

3. 乗り換え便サービスの利用実績

- ・乗換えサービスは、12月末時点で353枚が利用されており、前浜線⇄赤泊線の乗換えは増加、東海岸線⇄内海府線は減少している。度津線⇄小木線は平成24年度と同様に利用が少なく、金田新田線⇄小木線の利用は見られなかった。

	平成25年度 (H25.4.1～12.31)	平成24年度 (H24.4.1～12.31)	平成23年度 (H23.4.1～12.31)	平成22年度 (H22.4.1～12.31)	H24年度比	H23年度比
前浜線⇄赤泊線	257 (羽茂乗換1件含む)	248	225	116	103.6%	114.2%
東海岸線⇄内海府線	92	119	138	98	77.3%	66.7%
度津線⇄小木線	4	2	23	23	200.0%	17.4%
金田新田線⇄小木線	0	1	7	0 外三崎線⇄小木線 (H22.4.1～9.30)	0.0%	0.0%
計	353	370	393	237	95.4%	89.8%

4 佐渡総合病院来院者ヒアリング調査

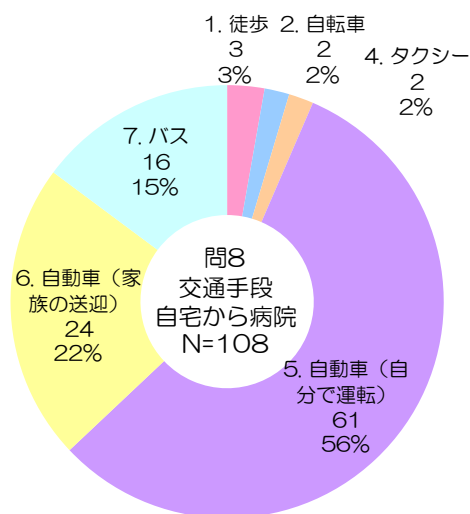
佐渡病院出入り口付近及び待合室に調査員を配置しヒアリングにより調査を実施した。

実施日：平成 25 年 9 月 10 日（火） 8:00～17:00

回収：108 名/日

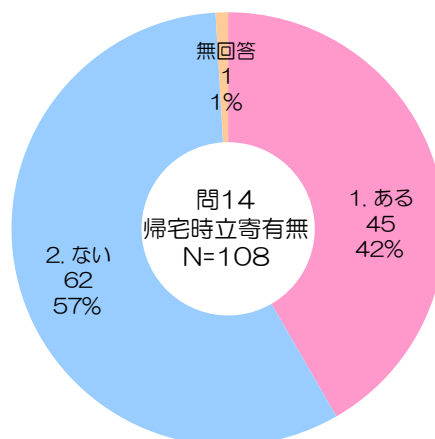
○病院への交通手段

自動車(自分で運転)が56%と最も高く、
次いで自動車(家族の送迎)が22%、
バスの割合は15%となっている。



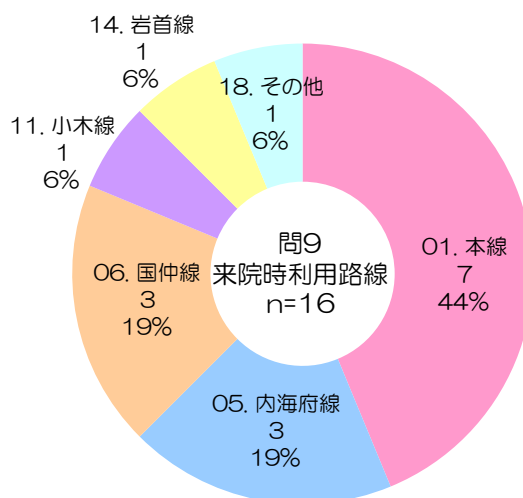
○帰宅時の立寄りの有無

帰宅するまでにどこかに立ち寄る予定があるかどうかについて、「ある」方の割合が42%であり、通院後に他の用事をたしている状況がある。

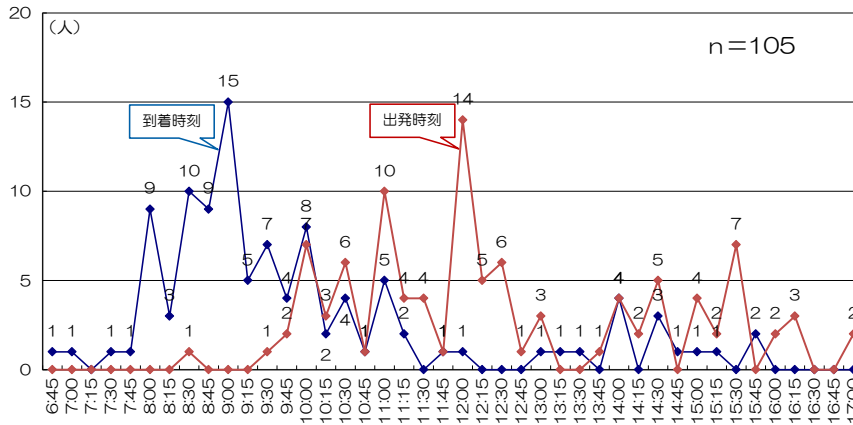


○来院時の利用路線（バスのみ）

来院時のバス利用者は、本線が44%と最も高く、次いで内海府線・国仲線がそれぞれ19%となっている。



問 10.病院到着時刻×問 12.病院出発時刻



通院時刻は9時頃、出発は11～12時ごろが多い。利用時間・滞在時間を踏まえた効率的・効果的な運行施策の検討が必要である。

5 検証

- 病院直行便に関しては、佐渡総合病院での降車は海府線で17.2%、内海府線で31.3%と利用割合が高く延伸効果が高い。一方昼の帰り直行便の利用割合が少ないが、利用状況やヒアリング調査の結果から、診療終了時間のばらつきや買い物等により乗換え利用での帰宅が推察される。
- 昼の直行便については現在の利便性が失われないよう、平成26年度に整備される佐渡総合病院ロータリーに本線が乗り入れすることを契機に本線を活用し、両津（内海府線、東海岸線）、佐和田（小木線、赤泊線）、相川（海府線、七浦海岸線）のそれぞれの拠点におけるスムーズな乗換対応について検討する。

観光二次交通

1 事業概要

(1) 目的

路線バスを沿線観光地まで迂回・延伸させることにより、個人観光客の利便性向上と路線バス利用の促進を図る。

土曜日・日曜日を基本に既存路線バスの迂回・延伸させ、個人観光客にとって利用しやすいサービスとなるよう、平成21年7月から継続的に事業を展開してきたものである。平成25年度は3月30日にオープンしたトキふれあいプラザの集客力を路線バス利用促進に活かすため、両津港、小木港の両港からアクセス向上を図るため南線を迂回運行している。

(2) 内容

- 1) 期 間：平成25年4月1日～11月30日
- 2) 対象者：利用制限なし
- 3) 対象路線：本線、南線、七浦海岸線、小木線

参考：主要観光地入込客数（出典：佐渡市観光商工課）

観光地名	1月～12月の比較						
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	H25/H24	H25/H23
相川町中温泉	165,920	142,190	141,640	126,350	134,900	1.07	0.95
金井温泉	62,040	53,780	47,910	36,970	50,680	1.37	1.06
椎崎温泉	36,240	29,930	28,500	26,060	30,734	1.18	1.08
尖閣湾	143,190	119,430	112,990	108,270	112,160	1.04	0.99
大佐渡スカイライン	121,570	100,410	97,660	76,120	93,650	1.23	0.96
佐渡金山	234,550	195,440	177,490	160,950	179,790	1.12	1.01
根本寺	78,640	65,860	65,840	64,650	55,780	0.86	0.85
真野御陵	57,400	49,330	44,050	38,160	42,690	1.12	0.97
トキの森公園	196,040	164,930	143,790	154,940	202,110	1.30	1.41
佐渡歴史伝説館	118,680	97,450	76,810	63,990	73,200	1.14	0.95
西三川ゴールドパーク	101,490	86,140	94,810	90,500	93,320	1.03	0.98
天領の里(酒造見学)	6,000	6,190	4,760	4,660	5,700	1.22	1.20
かもこ観光センター	82,080	76,830	59,160	50,770	83,090	1.64	1.40
計	1,403,840	1,187,910	1,095,410	1,002,390	1,157,804	1.16	1.06

2 利用実績

- 本線は平成24年度と比較してほぼ横ばいである。「佐渡金山」の乗降者数が前年度比で微減となる一方で、「佐渡版画村」、「相川博物館」の乗降者数は増加している。
- 南線では、本年度運行を開始した南線のトキの森公園迂回については、休日のみの運行（8月は毎日）であったトキの森シャトルと比較して大幅に利用者数が増加している。また、土休日のみ迂回する他の主要バス停留所でも、妙宣寺以外のすべての施設で乗降者数が増加している。
- 七浦海岸線は平成24年度と比べて乗降者数がやや増加している。
- 小木線では、ゴールドパークへの4月～8月の利用者が減少しており、特に8月の減少が大きい。

1) 観光二次交通利用実績

(上段：乗降者数 下段：前年同月比増減)

路線	停留所	平成25年度								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
本線	佐渡金山	161 -9	308 -58	115 -41	197 -106	1,218 -86	396 158	195 -8	118 -3	2,708 -153
	佐渡版画村	11 -1	27 3	23 8	22 8	97 15	39 20	19 1	21 14	259 68
	相川博物館	5 -3	12 1	5 -2	21 20	86 35	26 22	7 3	7 4	169 80
トキの森シャトル	両津港	-133	-299	-174	-272	-1,050	-260	-254	-67	-2,509
	椎崎温泉	-1	-10	-12	-24	-48	-9	-11	-6	-121
	能舞台前	-3	-2	-2	-15	-13	-2	-4	-1	-42
	潟上温泉	-22	-24	-23	-51	-112	-29	-28	-22	-311
	トキの森公園	-141	-309	-177	-312	-1,031	-289	-251	-74	-2,584
南線	トキの森公園(平日)	213	368	234	289	1,057	314	179	91	2,745
	トキの森公園(休日)	234	592	256	261	538	483	241	128	2,733
	歴史伝説館	113 22	146 -7	92 4	94 -17	200 22	170 72	79 -37	95 41	989 100
	尾畑酒造前	28 3	55 12	50 17	30 -5	52 -16	51 6	45 7	32 13	343 37
	吉岡臨時	9 6	28 11	12 -4	16 -2	17 0	20 -9	29 17	40 7	171 26
	国分寺	17 7	21 -1	23 15	21 -4	25 6	40 20	30 16	21 17	198 76
	妙宣寺	9 -6	41 -5	32 11	41 12	13 -21	30 -4	26 -20	12 -3	204 -36
	大膳神社	1 0	5 0	10 0	4 2	5 -10	16 12	2 -3	3 0	46 1
岸線 七浦毎	尖閣湾達者	3 -14	30 -13	5 -9	33 9	57 10	23 10	8 5	5 4	164 2
	尖閣湾揚島	10 -14	31 1	13 -12	53 27	65 14	45 0	14 -8	23 16	254 24
小木線	歴史伝説館	75 19	122 1	45 -7	90 -26	168 -17	114 35	59 -32	62 20	735 -7
	ゴールドパーク	25 -7	107 -45	14 -14	77 -53	247 -151	225 110	88 42	28 13	811 -105
合計		914	1,893	929	1,249	3,845	1,992	1,021	686	12,529

※今年度延長・迂回運行を行っている施設についてのみ集計

2) トキの森公園入館者数とバス利用者数

- ・ トキの森公園バス停については入館者数の増加以上にバス利用者が増加し効果が高い。
- ・ H24 までのトキの森シャトルの運行では両津港からの観光客の足として得たが、本年度は南線を迂回運行することで両津港以外からの利用客にも対応することができた。

	H24	H25	対前年比
トキの森公園入館者数（4～11月）	189,470	195,336	103.1%
トキの森公園バス停利用者数	2,584	5,478	212.0%

3) 宿根木線利用実績

- ・ 宿根木線利用者の 40.2%が宿根木の利用者であり、目的地としての需要が高い。
- ・ 日平均の宿根木利用人数は 3.2 人と多くないが、日によっては 20 人以上の利用がある。

<宿根木線> 小木発 9:55,12:25 沢崎発 11:00,13:32 244 日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
総利用者	205	202	236	254	501	261	150	129	1,938
宿根木	94	85	89	93	260	107	34	17	779
利用割合	45.9%	42.1%	37.7%	36.6%	51.9%	41.0%	22.7%	13.2%	40.2%

※20人以上の利用 4/29(祭)、6/20(木)、8/19(月)、8/23(金)、8/24(土)、8/25(日)、9/22(日)

4) フリー乗車券の利用実績

- ・ フリーパスの販売枚数は増えている。
- ・ 平成 25 年度に販売を開始した 3 日フリー券についても一定の利用者があった。

	3日間フリー券			2日間フリー券			1日間フリー券		
	H23	H24	H25	H23	H24	H25	H23	H24	H25
販売枚数	—	—	191	769	497	720	611	1,649	1,798

参考：佐渡汽船 3 航路別輸送実績（4 月～11 月） 《航路別月別輸送実績より》

	新潟両津		小木直江津		赤泊寺泊	
	個札	団体	個札	団体	個札	団体
H21	1,056,903	189,108	106,894	88,566	22,807	25,236
H22	987,264	172,440	88,427	83,884	22,273	27,886
H23	989,152	135,340	91,877	71,502	17,781	25,472
H24	1,006,316	157,312	95,121	83,720	21,424	30,323
H25	973,162	156,033	85,967	71,174	22,120	22,801
利用割合	86.1%	13.9%	54.0%	46.0%	44.7%	55.3%

3 検証

- 金山での乗降数が前年比で微減となったものの佐渡版画村、相川博物館での利用は増えている。金山発の便で佐渡版画村、相川博物館で降車があることから金山だけでなく相川地区を複合的に周遊する利用形態があり、平成 26 年度に新築される相川支所の交通ターミナルを拠点とした相川周遊バス等について検討する。
- トキの森公園については休日だけでなく平日の利用者数も多く迂回の効果が高い。時間帯ごとの利用状況等の詳細な検証を進める。
- 宿根木線については現在の利用状況から特定の日、期間に二次交通の需要が高まる傾向があるが、北陸新幹線開業により観光客の増加や個人・団体観光客の割合に変化が現れることで、求められる二次交通にも変化があることを想定した検討が必要である。
- フリーバス販売枚数が増えており、一つの目的地だけでなく複数の路線を乗り継いで複合的に観光地を回る利用形態が増えていることが推察される。一層の PR を図る。
- 主要観光地においては、かもこ観光センターが大幅に増加しており、これまでの「観光地」へのアクセスに加え、「買い物」や「食事処」等への移動も含めたパッケージとしての観光二次交通の活用（観光施設～食事・土産処等を結ぶルートやダイヤ接続、PR 等）も検討が必要である。
- 今後、北陸新幹線開業や世界遺産登録を見据え、佐渡を扇の要とする周遊型広域観光を推進するため、さらなる利便性向上に向けて関係機関と一体的に検討を行っていく必要がある。

セントラルタウン来訪者ヒアリング調査・検証事業

1 事業概要

(1) 目的

市内各地からの利用が見られる、セントラルタウンにおいて、調査員を配置し、直接聞き取りによるヒアリング調査を実施した。

利用者のバス利用状況や認知度等の聞き取りを行った。

(2) 内容

1) 期 間：平成25年9月10日

2) 調査数：セントラルタウン利用者.....89人

セントラルタウンバス停利用者.....8人

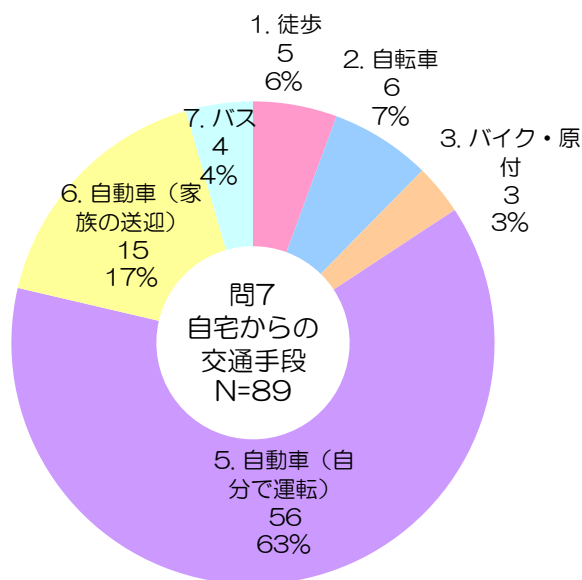
佐和田商工会館前バス停利用者.....1人

2 調査結果の概要 検証

○自宅からセントラルタウンへの交通手段

自動車の方が63%と最多であった。

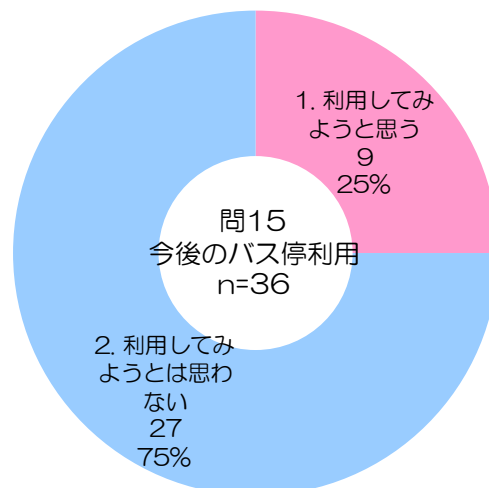
次いで家族送迎が17%であった。



○今後のバス停利用について

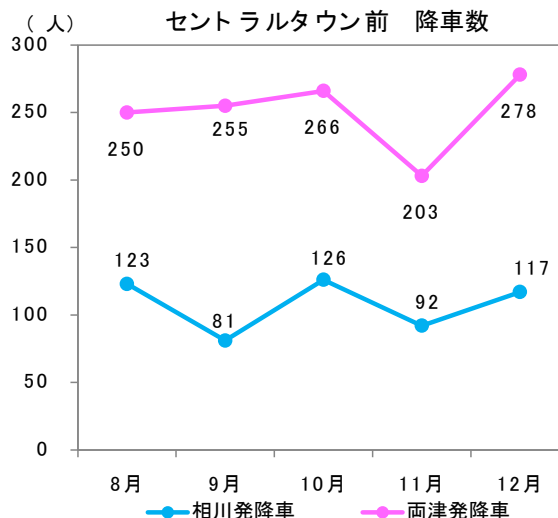
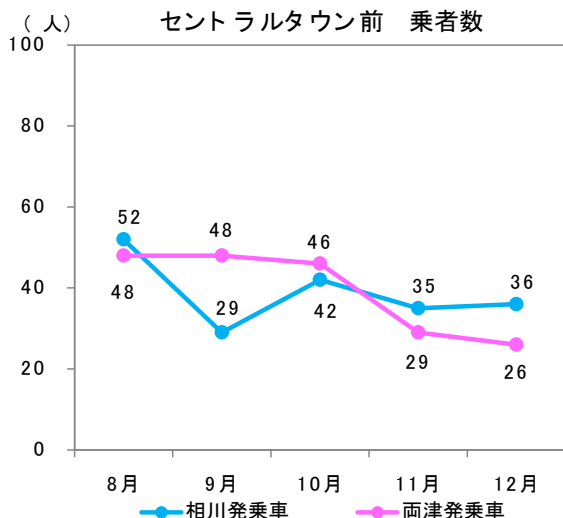
25%の方が、今後利用してみようと思うと回答している。

27%の方が、今後利用してみようとは思わないと回答している。

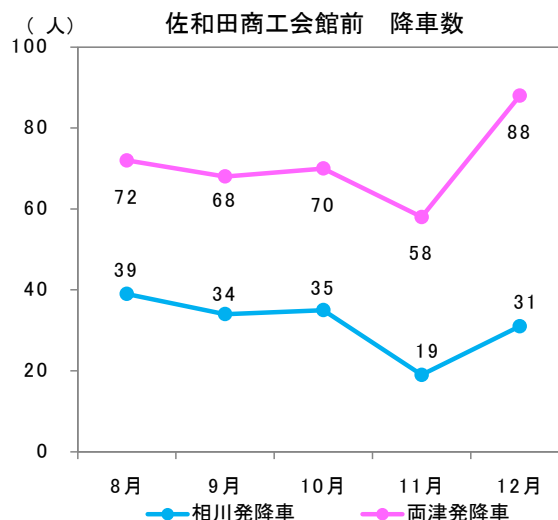
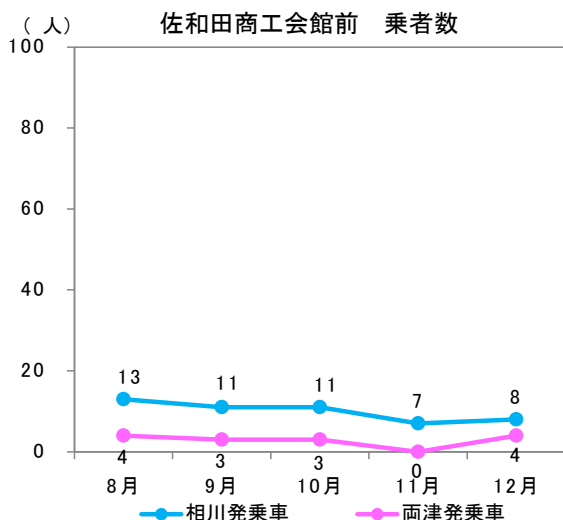


3 利用実績

<セントラルタウン前乗降者数>



<佐和田商工会館前乗降者数>



- アンケート結果から、当社会実験に対する認知度がまだ低く、周知が必要である。
- セントラルタウンバス停利用者は、佐和田 BS 利用者からの転移が多いと推察される。
- 現在は、セントラルタウンへの買物利用に比べて、地元の方のお出かけ利用の方が多い。
- 17%の方が家族送迎で来店しており、午前中は 11 時台、夕方は 16 時半～17 時頃の利用が多い。これらを踏まえ来店者を路線バス利用へ取り込むための施策が必要である。
- 一方で 25%の方が今後は利用してみたいという意向がある。
- セントラルタウン前の利用者数については乗車数が降車に比べて少ないことから、乗車時は佐和田 BS を利用している可能性がある。今後、セントラルタウン内での待合環境整備が図られることで買物利用者の足としてのさらなる利便性向上が期待されることから、継続して利用状況・利用者特性の把握を行うとともに他路線の乗入等についても検討が必要である。

平成25年度佐渡市地域公共交通活性化協議会収入支出決算書（見込み）

収 入

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 見 込 み	比 較	付 記
1. 負 担 金	20,895,000	15,000,000	△ 5,895,000	佐渡市負担金 前期9,000,000円 後期6,000,000円
2. 補 助 金	0	0	0	
3. 繰 越 金	4,897,822	4,897,822	0	前年度繰越
4. 諸 収 入	0	925	925	預金利息：925円
収 入 合 計	25,792,822	19,898,747	△ 11,894,075	

支 出

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 見 込 み	比 較	付 記	
1. 運 営 費	会議費	1,016,000	646,814	△ 369,186	報酬・報償費 177,100 費用弁償 453,113 お茶代 16,601
	事務費	150,000	500,000	350,000	事務用消耗品 30,000 通信運搬費 470,000
2. 事 業 費	24,624,822	17,957,776	△ 6,667,046	観光二次交通PR費等 3,639,500 高齢者運賃割引事業 8,276,200 路線運行サービス検証等 3,909,000 その他 2,133,076	
3. 予 備 費	2,000	0	△ 2,000		
支 出 合 計	25,792,822	19,104,590	△ 6,688,232		

収入見込み額 19,898,747 円
 支出見込み額 19,104,590 円
 差引残額 794,157 円（次年度へ繰越）